

平成20年度事業計画及び当初予算の編成について

平成20年3月

学校法人 東京工芸大学
理事長 小野 茂夫

[] 平成20年度事業計画について

1. 事業計画の策定に係る基本的考え方

少子化及び規制緩和等に起因する大学間競争がますます激しくなっている中で、本学は、在学生のみならず卒業生に対する責任においても、永続的な学校法人としての基盤を確立すべく、「第二次中期計画」に基づいた経営を展開しております。

平成20年度においても、教育・研究、教育環境及び社会的貢献等の分野における質的向上を図り、学生のみならず社会に優れて貢献できる大学を目指して、教職員が一丸となった経営努力を推進していく所存です。

この基本方針を実現するため、平成20年度事業計画を以下のとおり策定しました。

2. 教育事業の質的強化

(1) 本学を学生及び社会にとって魅力ある大学とするため、変化するニーズに適切に対応できる教育事業を展開し、入学生の確保及び退学者の減少に努めます。

第一に、他大学と差別化できるユニークな教育体制を確立していかなければなりません。平成18年度から開始した「工・芸共同プロジェクト」は、工学的技術と芸術学的感性を融合した教育事業であり、本学ならではの特色ある教育となっておりますので、教育の成果を具現化できるよう、その内容の充実を図っていきます。また、平成19年度からカリキュラムに工芸融合科目を開設しましたが、当年度においては、科目数の増加及び授業内容の充実を図ります。

第二に、本学をより魅力ある大学にするため、平成19年度において、「第二次中期計画」に緊急かつ重点的課題を付加しましたが、全ての学科等におけるカリキュラム等の充実を図ります。

(2) 近時、学生の学力低下が指摘されていますが、本学においては、全ての学生が基礎教育課程から専門教育課程までを着実に習得できるよう、基礎教育課程の質的充実をも展開しています。昨年度に移転・拡充した学習支援センター機能をさらに充実していきます。また、オフィスアワー制度（教員が特定日時に研究室に在室し、学生からの授業内容及び学習方法等に関する相談を受ける制度）の成果をより確実なものとしします。

(3) 工学部においては、学生及び社会のニーズに対応すべく、平成19年度に全ての学科のカリキュラムを改定しましたが、当年度は新カリキュラムの導入初年度となります。改定の目的が実現できるよう、教職員が力を結集していきます。

芸術学部においては、昨年度に開講したマンガ学科及びアニメーション学科ゲームコースの学年進行を円滑に推進し、学部の総合力を高めていきます。学生及び卒業生が、それぞれの分野において高く評価される作品を制作でき、また、より多くの賞を受賞できるよう、教育指導を強化していきます。

専門教育課程においては、実践能力を高めるため、資格取得の推進等の観点から

カリキュラムを改革・改善していきます。また、学生の授業評価で明らかとなった学生のニーズや要望を授業に取り入れます。

- (4) 学生のキャリア開発について、工学部では、昨年度導入した「YESプログラム（若年者就職基礎能力支援事業 - Youth Employability Support Program - の略で、企業が若年者の就職に関して特に重視しているコミュニケーション能力、職業人意識、基礎学力、ビジネスマナーといった就職基礎能力の習得を支援する、厚生労働省が創設した事業）」を中心として、低年次からのキャリア教育を展開していきます。芸術学部では、「キャリアデザイン概論」等の学科目外授業を活用して、学年次に応じたキャリア開発体制の定着を図ります。

また、キャリア開発センターは、就職情報の収集・伝達等の機能をより充実すると共に、就職合同説明会等を効果的に実施した上、学生の個別進路相談にきめ細かく対応することによって、就職率の向上を図り、就職に対する学生の満足度を高めます。

- (5) 大学院教育に対する社会の期待の高まりに対応して、芸術学研究科においては、昨年度に追加設定したアニメーション研究領域を含め、総合的な質的向上を図ります。また、工学研究科では、当年度からの大学院課程の再編を通じて、研究成果の高度化を目指します。

- (6) 昨年度実施した「学生満足度調査」の結果を受け、学生の満足度を高めるために設置した「全学改善推進委員会」の活動を中心に改善を進め、具体的な施策の実施状況を公表していきます。

- (7) 平成21年度に工学部ナノ化学科を生命環境化学科に変更することを決定しています。ナノ化学科は、平成16年4月、ナノテクノロジー分野に化学的技術から広く貢献できる人材を育成するため設置しましたが、近年のナノ化学が生命化学、環境化学、生活化学等の諸分野への広がりをみせているため、カリキュラムを改定した上、技術的進展及び社会的要請に応えようとするものです。

当年度は、この変更を実効性あるものとするべく準備を展開します。同時に、受験生、企業等への告知広報等を実施して、本学の考え方を広く浸透させます。

3. 研究事業の充実

- (1) 本学の研究事業は、文部科学省等の所謂「補助金事業」のみならず、受託研究契約や研究寄付金等を活用して、着実に前進しておりますが、当年度においても、研究事業の高度化に向け、本学の資源を有効活用していきます。

文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」に認定された『ハイパー・メディア研究センター』、『ナノ科学研究センター』及び『風工学研究センター』等において、所期の研究成果を挙げると共に、平成19年度で終了する「世界水準の研究拠点形成事業（21世紀COEプログラム）」採択研究である『都市・建築物へのウインド・イフェクト』について、当年度の「グローバルCOE」事業として採択されるよう、鋭意、準備作業を進めていきます。工学部の研究室においては、学生の好奇心や期待を満たせる研究課題の探求にも力を入れています。

また、芸術学分野においても、先端かつ総合的なコンテンツ領域の確立に向け、積極的な研究を継続していきます。

- (2) 学内の工・芸共同プロジェクトや研究活動特別助成制度を改善・強化してきましたが、当年度においても、社会的要請に合致した先導的な研究に対しては、資源を傾斜配分する措置を実施していきます。

4．教育・研究環境の整備

- (1) 学生にとって学びやすい環境の整備は本学の責務であります。芸術学部を擁する中野キャンパスの老朽化対策も視野に入れた、中野キャンパス再整備は本学の永年の課題でありましたが、当年度中に中野キャンパスの再整備に関する詳細計画を策定した上、数年をかけて段階的に整備を実施し、新しい中野キャンパスを誕生させる計画で検討に入りました。
- (2) 工学部及び一部の芸術学部が所在する厚木キャンパスについても、学生の満足度を高めると共に、快適なキャンパス・ライフを満喫できるよう、校舎等の施設の改造及び改装事業を計画していきます。
- (3) 昨年度開講した芸術学部マンガ学科及びアニメーション学科ゲームコースが第二年度を迎えます。学年進行に対応した機器備品等の導入・整備に万全を期します。
また、厚木キャンパスにおいては、各教室に装備するAV機器類を更新・整備して、より視覚を重視できる授業環境を整えます。
- (4) グローバルな技術の進展に対応して教育・研究事業の実効性を高めるためには、先端技術に対応した装置・機器等の導入が不可欠であり、所要の設備については、外部資金の導入努力と内部資金の適正配分を通じて、適宜必要な整備を実施していきます。
- (5) 学生の履修登録や出席管理等について、電子的な管理体制を敷いていますが、当年度にソフトウェア（ユニバーサル・パスポート）をバージョンアップし、適用範囲を拡大すると共に、使い勝手の向上を図ります。

5．経営の強化及び社会的貢献

- (1) 大学を取り巻く環境が大きく変化し、殊に私立大学間の競争が厳しくなっている中で、永続的な学校法人として存続していくため、学校法人の社会的責任を意識しつつ、環境の変化に適切に対応できる経営を強化します。

教学と経営の連携を緊密にし、魅力ある大学作りに邁進します。

昨年度に月例化した常任理事会及び開催数を増加した理事会・評議員会にて、迅速かつ適切な意思決定を行うと共に、意思決定に有識者の意見を反映させていきます。

大学の社会的責任を尊重し、意思決定過程における監事の役割を強化すると共に、監査法人と監事との連携も強化します。

補助金の不明朗な使途の是正に関する文部科学省の各大学に対する指導に基づ

き、如何なる不正をも許さない組織運営体制を確立し、経営の透明性を高めま
す。

学生の満足度調査や父母懇談会等を通じて吸い上げた意見や要望を学校経営に
反映させる体制を強固なものとします。

- (2) 大学の實力を高めるためには、教職員の能力をより一層向上させることが必要で
す。平成 18 年度から実施している教員人事制度の改革を推進すると共に、当年度
より事務職員の活性化を目的とする人事制度の改革を本格的に開始します。
- (3) 事務部門業務の改革を促進するため、職務の見直しに基づく業務の効率化を推進
すると共に、情報の共有化を図り、業務の品質を高めま。特に、当年度において
は、全員が学生に信頼される職員を目指して意識改革を進めます。
- (4) 大学に対する情報公開の要請が高まる中、本学においては、紙媒体のみならず、
電子媒体を通じた情報公開に力を入れてきました。大学関係者や志願者だけでなく、
広く社会に本学の実態を御理解頂けるようにするため、当年度においては、本学ホ
ームページを刷新すると共に、本学の露出度及び認知度を高めるための工夫を展開
します。また、大学広報と入試広報とを連携させ、広報の効果を高めていきます。
- (5) 教育・研究事業の発展は、財政基盤の健全化によって担保されます。予算管理制
度を効果的に運用し、また、資金運用効率を高めることによって、財務体質を強化
していきます。
- (6) 本学の社会的責任の遂行能力を担保するため、昨年度の認証評価で受けた助言等
について、改善に努めます。また、公的補助金事業を中心として不正防止体制の円
滑かつ着実な運用を展開します。
- (7) 産学連携のみならず、高大連携及び地域貢献の分野においても、引き続き事業活
動を強化していきます。児童・生徒を対象とする「出前授業」や「わくわく工芸ラ
ンド」等並びに社会人を対象とする「公開講座」等の内容を充実した上、継続実施
していきます。また、学生募集の柱の一つとなる「オープンキャンパス」について
も、実施内容の充実を図ります。
- (8) 産学連携及び知的財産の活用を推進するため、当年度においても、引き続き大学
知的財産アドバイザーの派遣を受け、本学の知的財産の活用・管理体制を確立しま
す。

6 . 今後の課題

絶対的に資源の乏しい我が国にあって、本学が果たすべき役割は、先端技術及び
コンテンツ領域において、創造性ある人材を多く社会に輩出することにあると考え
ます。社会的ニーズを適確に捉え、教育・研究に反映することによって、本学の存
在意義が学生のみならず社会に認知されますので、本学は、常に改革の意欲を失う
ことなく、教育・研究事業の質的向上及び経営の健全性の確保に向け、不断の努力
を傾注していきます。

[] 平成 20 年度収支予算について

1. 予算編成方針の概要

平成 20 年度収支予算は、下記の予算編成方針に基づいて、編成しました。

- (1) 帰属消費収支比率を 90%以下とする。工学部は 100%以下、また、芸術学部は 75%以下を目指す。
- (2) 中野キャンパス再整備計画及び厚木キャンパス施設の再調達計画を担保するため、学園整備引当特定資産に 14 億円以上を繰入れる。
- (3) 翌年度繰越消費支出超過額を 50 億円以下とする。
- (4) 経常的な固定経費は、平成 19 年度補正予算額を下回る水準で編成する。
- (5) 年度内に中野キャンパス整備に係る詳細計画の策定を完了するために必要となる支出を予算化する。
- (6) 戦略的な新規事業については、法人事務局にて予算を確保する。

2. 資金収支予算の概要

(1) 資金収支予算の概観

当年度の収入計 13,411 百万円に対して支出計 13,344 百万円で、資金収支差額が 67 百万円となる予算としました。

収入計は、前年度補正予算比（以下、「前年度比」と云う）9,919 百万円減少（42.5%）しますが、その要因は引当特定資産の資金運用期間が長期化することにあります。

消費収支計算の帰属収入に相当する収入は 8,613 百万円で前年度比 499 百万円減少（5.5%）する予算です。

支出計は、前年度比 9,546 百万円（41.7%）減少する予算ですが、その減少要因は上述のとおり資金運用期間にあります。

人件費支出、経費支出及び施設設備関係支出の総額は 7,167 百万円で前年度比 417 百万円減少（5.5%）する予算となっています。

(2) 資金収入予算の状況

学生納付金収入は 7,215 百万円で、前年度比 3 百万円増加する予算です。工学部の入学定員充足率の低下によって、芸術学部の収容定員増の効果が出ない状況です。

補助金収入は、国の補助金政策の変化に対応して経常費補助金を保守的に予算化した結果、予算額 640 百万円と前年度比 71 百万円減少（10.0%）する予

算となりました。

資産売却収入は、満期償還を迎える利付国債 400 百万円を計上しました。

事業収入が 43 百万円と前年度比 44 百万円減少（ 50.8% ）する予算となっておりますが、これは、前年度は大型受託研究契約が受注できたことを反映しています。

雑収入は 137 百万円と前年度比 177 百万円減少（ 56.4% ）する予算ですが、これは定年退職者数の減少を反映しています。

前受金収入は 1,158 百万円で前年度比 46 百万円減少（ 3.8% ）する予算です。残念ながら、工学部の入学定員充足率の下落傾向に歯止めが掛からないこと及び芸術学部でも認証評価の指摘を受け、入学定員充足率を引き下げたことの影響が出ています。

その他の収入 4,968 百万円は、資金運用に伴う引当特定資産からの繰入収入 4,600 百万円等を予算に計上しました。

(3) 資金支出予算の状況

人件費支出は、前年度比 233 百万円減少（ 5.9% ）する 3,702 百万円の予算です。定年退職者の減少による退職金支出の減少に加え、教職員人件費も前年度比で減少する見通しです。

教育研究経費支出は 1,898 百万円と、前年度比 73 百万円（ + 4.0% ）増加する予算としています。新学科等の学年進行に伴う支出増、PC 関連機器等のリース料支払増等によって、支出の増加圧力が掛かっています。

管理経費支出は 655 百万円で、前年度比 61 百万円増加（ + 10.2% ）する予算です。経費節減努力の効果が十分でない中で、入試広報及び大学広報予算の増額が予算額を押し上げています。

施設関係支出は 583 百万円の予算で前年度比 135 百万円減少（ 18.8% ）します。当年度は校舎の新築計画がないため、前年度比減少しますが、校地買増し予算、中野キャンパス整備計画関連予算、厚木キャンパス校舎の改修・改造予算等によって、引き続き高水準の予算が計上されています。

設備関係支出は 330 百万円で、前年度比 183 百万円減少（ 35.6% ）する予算を組みました。芸術学部の新学科等用機器備品の購入支出が一段落し、また、工学部で支出抑制しているため、予算が減額されています。

資産運用支出 6,021 百万円の内、4,600 百万円は引当特定資産の運用に伴う繰入支出、1,400 百万円は学園整備引当特定資産への繰入支出です。

2 . 消費収支予算の概要

(1)消費収支予算の概観

当年度帰属収入 8,223 百万円（前年度比 309 百万円）に対し消費支出 7,837

百万円（同 71 百万円）で、帰属消費収入超過額が 386 百万円（同 239 百万円減）の予算としています。

学納金及び資産運用収入が増加しますが、帰属収入は前年度比減少する予算であり、一方で、消費支出は、人件費が大幅減となるものの、教育研究経費及び管理経費が増加傾向にあるため、帰属収入の減少に見合った減少とはならないので、帰属消費収入超過額を減少させています。

当年度消費収入超過額は、基本金組入額が 1 百万円が計上される結果、385 百万円を計上する予算としています。第 1 号基本金は、施設・設備支出額を減価償却満了資産額が上回るため、取崩額 276 百万円が計上されています。

この結果、翌年度繰越消費支出超過額は、前年度比 661 百万円改善して、4,684 百万円となる予想です。

帰属消費支出比率は 95.3%（前年度比 2.6 ポイント悪化）、帰属収入に対する繰越消費支出超過額の割合は 57.0%（同 5.6 ポイント改善）となります。

(2)消費収入項目の概況

帰属収入の内、寄付金に加算した現物寄付額は 10 百万円です。

基本金組入額予算は、当年度も第 3 号基本金に組入れる奨学金基金 1 百万円だけを予定しています。

第 1 号基本金は、組入高 927 百万円、取崩高 1,203 百万円で、差引 276 百万円が基本金取崩額に計上されています。

(3)消費支出項目の概況

経費に加算する減価償却額は 1,538 百万円で、前年度比 3 百万円の減少を予想しています。教育研究経費に計上される減価償却額は 1,439 百万円（前年度比 + 2 百万円）また、管理経費に計上される額は 99 百万円（同 5 百万円減）です。

当年度においては、資産処分差額の計上は予定していません。

徴収不能引当金については、えんのき奨学金に係る徴収不能懸念債権の増加を想定し、0.3 百万円の繰入額を予算化しています。

3 . 財政予算の概要

- (1) 当年度末総資産残高は 40,888 百万円で期首残高比 350 百万円の増加を予想しています。

有形固定資産残高は、土地（期首残高比 + 257 百万円）、図書（同 + 52 百万円）及び建設仮勘定（同 + 105 百万円）が増加する一方、建物（同 263 百万円）、構築物（同 105 百万円）、教育研究用機器備品（同 641 百万円）及びその他の機器備品（同 14 百万円）が減少する結果、28,708 百万円（同 610 百万円）の予

算としました。

その他の固定資産残高は、学園整備引当特定資産への繰入支出 1,400 百万円を反映して、6,910 百万円（同 + 1,015 百万円）を見込みます。

負債残高は 1,975 百万円で期首残高比 35 百万円を予想しています。入学定員充足率の低下を反映して前受金残高が減少するためです。

基本金残高は 43,597 百万円で、期首残高比 275 百万円の予想です。教育研究用機器備品をはじめ、減価償却満了資産の増加を反映しています。

繰越消費支出超過額は 4,684 百万円と予算目標である 5,000 百万円を下回る予想です。

(2) 当年度末支払資金残高は以下のとおりの予想です。

現預金残高	5,133 百万円（内、学納金前受金 1,158 百万円）
学園整備引当特定資産	5,864 百万円
教研振興引当特定資産	109 百万円
合計	11,106 百万円（期首残高比 + 1,082 百万円）

以上

平成20年度当初 - 資金収支予算案（全学）

（金額単位：千円）

科 目	平成16年度 決 算	平成17年度 決 算	平成18年度 決 算	平成19年度 補正予算	平成20年度 当初予算	比較増減			
						H18-H17	H19 - H18	H20 - H19	
収入の部	学生納付金収入	6,804,052	6,969,765	7,310,638	7,211,493	7,214,840	340,873	99,145	3,347
	手数料収入	154,972	128,252	104,747	91,590	81,001	23,505	13,157	10,589
	寄付金収入	69,709	60,005	44,698	50,305	44,678	15,307	5,607	5,627
	補助金収入	748,866	759,969	776,500	710,726	639,666	16,531	65,774	71,060
	資産運用収入	5,195	5,708	18,943	47,903	52,951	13,235	28,960	5,048
	資産売却収入				599,092	400,000	0	599,092	199,092
	事業収入	39,957	61,654	81,400	86,706	42,626	19,746	5,306	44,080
	雑収入	204,635	138,051	230,055	314,694	137,244	92,004	84,639	177,450
	小計	8,027,386	8,123,404	8,566,981	9,112,509	8,613,006	443,577	545,528	499,503
	前受金収入	1,272,675	1,309,989	1,240,655	1,203,465	1,157,655	69,334	37,190	45,810
	その他の収入	576,654	357,576	5,255,246	14,499,485	4,967,997	4,897,670	9,244,239	9,531,488
	資金収入調整勘定	1,613,081	1,402,664	1,542,559	1,485,560	1,327,599	139,895	56,999	157,961
	当期収入計	8,263,634	8,388,305	13,520,323	23,329,899	13,411,059	5,132,018	9,809,576	9,918,840
	前年度繰越支払資金	3,299,399	3,520,886	4,036,496	4,626,901	5,066,155	515,610	590,405	439,254
収入の部合計	11,563,033	11,909,191	17,556,819	27,956,800	18,477,214	5,647,628	10,399,981	9,479,586	
支出の部	人件費支出	3,735,854	3,587,619	3,759,783	3,934,787	3,701,854	172,164	175,004	232,933
	教育研究経費支出	1,547,663	1,536,340	1,602,999	1,825,047	1,897,679	66,659	222,048	72,632
	管理経費支出	483,414	532,412	575,528	594,072	654,892	43,116	18,544	60,820
	借入金等返済支出	10,179					0	0	0
	施設関係支出	306,456	153,670	407,766	717,233	582,515	254,096	309,467	134,718
	設備関係支出	683,076	525,377	487,685	512,641	330,045	37,692	24,956	182,596
	小計	6,766,642	6,335,418	6,833,761	7,583,780	7,166,985	498,343	750,019	416,795
	資産運用支出	1,156,228	1,427,595	6,218,989	15,115,074	6,021,390	4,791,394	8,896,085	9,093,684
	その他の支出	224,992	204,024	94,373	324,513	242,840	109,651	230,140	81,673
	資金支出調整勘定	105,715	94,342	217,205	142,722	131,971	122,863	74,483	10,751
	〔予備費〕				10,000	45,000	0	10,000	35,000
当期支出計	8,042,147	7,872,695	12,929,918	22,890,645	13,344,244	5,057,223	9,960,727	9,546,401	
次年度繰越支払資金	3,520,886	4,036,496	4,626,901	5,066,155	5,132,970	590,405	439,254	66,815	
支出の部合計	11,563,033	11,909,191	17,556,819	27,956,800	18,477,214	5,647,628	10,399,981	9,479,586	
資金収支差額	221,487	515,610	590,405	439,254	66,815	74,795	151,151	372,439	

平成20年度当初 - 消費収支予算案（全学）

（金額単位：千円）

科 目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	比較増減			
	決 算	決 算	決 算	補正予算	当初予算	H18 - H17	H19補正 - H18	H20 - H19補正	
消費収入の部	学生納付金	6,804,052	6,969,764	7,310,638	7,211,493	7,214,840	340,874	99,145	3,347
	手数料	154,972	128,252	104,747	91,590	81,001	23,505	13,157	10,589
	寄附金	85,713	76,138	60,541	69,037	54,678	15,597	8,496	14,359
	補助金	748,866	759,969	776,500	710,726	639,666	16,531	65,774	71,060
	資産運用	5,195	5,708	18,943	47,903	52,951	13,235	28,960	5,048
	事業収入	39,957	61,654	81,401	86,706	42,626	19,747	5,305	44,080
	雑収入	204,636	138,051	230,950	314,694	137,244	92,899	83,744	177,450
	（内、退職財団交付金）	(177,188)	(104,878)	(181,310)	(246,181)	(123,845)	76,432	64,871	122,336
	帰属収入計	8,043,391	8,139,536	8,583,720	8,532,149	8,223,006	444,184	51,571	309,143
	基本金組入額	155,961	1,000	1,000	1,000	1,000	0	0	0
消費収入計	7,887,430	8,138,536	8,582,720	8,531,149	8,222,006	444,184	51,571	309,143	
消費支出の部	人件費	3,690,082	3,555,605	3,728,802	3,934,787	3,701,854	173,197	205,985	232,933
	（内、退職給与引当繰入）	(198,276)	(108,170)	(231,052)	(352,490)	(177,333)	122,882	121,438	175,157
	教育研究経費	2,936,361	2,982,077	3,067,559	3,262,375	3,336,621	85,482	194,816	74,246
	（内、減価償却費）	(1,388,699)	(1,445,738)	(1,461,690)	(1,437,328)	(1,438,942)	15,952	24,362	1,614
	管理経費	579,798	638,882	680,251	697,942	753,671	41,369	17,691	55,729
	（内、減価償却費）	(96,384)	(106,469)	(104,724)	(103,870)	(98,779)	1,745	854	5,091
	資産処分差額	436,980	6,390	299,651			293,261	299,651	0
	徴収不能引当繰入 【予備費】	600	12,760		2,910	300	12,760	2,910	2,610
消費支出計	7,643,821	7,195,714	7,776,263	7,908,014	7,837,446	580,549	131,751	70,568	
当年度消費収支差額	243,609	942,822	806,457	623,135	384,560	136,365	183,322	238,575	
前年度繰越消費収支	8,528,328	8,284,719	7,210,599	5,989,927	5,344,993	1,074,120	1,220,672	644,934	
基本金取崩額		131,298	414,215	21,799	276,243	282,917	392,416	254,444	
翌年度繰越消費収支	8,284,719	7,210,599	5,989,927	5,344,993	4,684,190	1,220,672	644,934	660,803	
帰属消費支出比率	95.0	88.4	90.6	92.7	95.3	2.2	2.1	2.6	
繰越消費収支 / 帰属収入	103.0	88.6	69.8	62.6	57.0	18.8	7.1	5.7	

平成20年度 貸借対照表 予算案

(単位: 千円)

科目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	H17vsH18	H18vsH19	H19vsH20
固定資産	34,412,896	34,937,083	35,115,068	35,213,006	35,617,304	177,985	97,938	404,298
有形固定資産	31,399,322	30,535,904	29,578,265	29,318,015	28,707,573	957,639	260,250	610,442
土地	2,292,678	2,292,938	2,292,938	2,292,938	2,549,938	0	0	257,000
建物	18,830,521	18,531,764	17,950,610	18,501,419	18,238,363	581,154	550,809	263,056
構築物	1,564,530	1,453,377	1,313,653	1,220,463	1,115,201	139,724	93,190	105,262
建設仮勘定			283,700		104,811	283,700	283,700	104,811
教研機器	6,275,188	5,742,639	5,169,746	4,672,792	4,031,928	572,893	496,954	640,864
他の機器	143,221	133,440	124,791	106,781	92,901	8,649	18,010	13,880
図書	2,288,250	2,377,818	2,439,904	2,521,673	2,573,456	62,086	81,769	51,783
車両	4,934	3,928	2,923	1,949	975	1,005	974	974
その他の固定資産	3,013,574	4,401,179	5,536,803	5,894,991	6,909,731	1,135,624	358,188	1,014,740
電話加入権	5,462	5,462	5,462	5,462	5,462	0	0	0
保証金	20,231	121	121			0	121	0
有価証券	700,100	700,100	700,100	400,100	100	0	300,000	400,000
長期貸付金	55,131	35,251	29,102	21,133	20,483	6,149	7,969	650
退職給与引当特定資産	576,360	576,360	576,360	576,360	576,360	0	0	0
学園整備引当特定資産	1,300,000	2,700,000	3,816,300	4,464,300	5,864,300	1,116,300	648,000	1,400,000
えんのき奨学金引当	68,522	73,803	78,961	82,655	81,805	5,158	3,694	850
教研振興引当特定資産	39,843	61,157	80,472	94,056	109,296	19,315	13,584	15,240
3号基本金引当資産	247,925	248,925	249,925	250,925	251,925	1,000	1,000	1,000
流動資産	3,796,909	4,192,066	4,886,180	5,324,919	5,270,963	694,114	438,739	53,956
現預金	3,520,886	4,036,496	4,626,901	5,066,155	5,132,970	590,405	439,254	66,815
有価証券						0	0	0
未収入金	245,801	129,989	232,570	244,905	124,134	102,581	12,335	120,771
前払金	29,659	25,159	26,510	13,859	13,859	1,351	12,651	0
仮払金	563	422	199			223	199	0
合計	38,209,805	39,129,149	40,001,248	40,537,925	40,888,267	872,099	536,677	350,342

科目	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	H17vsH18	H18vsH19	H19vsH20
固定負債	606,826	574,812	543,831	543,831	543,831	30,981	0	0
退職給与引当金	606,826	574,812	543,831	543,831	543,831	30,981	0	0
流動負債	1,451,119	1,458,655	1,554,278	1,466,820	1,431,602	95,623	87,458	35,218
未払金	69,753	64,684	192,046	152,722	163,205	127,362	39,324	10,483
前受金	1,272,675	1,309,989	1,240,655	1,203,465	1,157,655	69,334	37,190	45,810
預り金	108,691	83,982	121,577	110,633	110,742	37,595	10,944	109
負債計	2,057,945	2,033,467	2,098,109	2,010,651	1,975,433	64,642	87,458	35,218
基本金	44,436,579	44,306,281	43,893,066	43,872,267	43,597,024	413,215	20,799	275,243
1号基本金	43,740,654	43,609,356	43,195,141	43,173,342	42,897,099	414,215	21,799	276,243
3号基本金	247,925	248,925	249,925	250,925	251,925	1,000	1,000	1,000
4号基本金	448,000	448,000	448,000	448,000	448,000	0	0	0
繰越消費支出超過額	8,284,719	7,210,599	5,989,927	5,344,993	4,684,190	1,220,672	644,934	660,803
合計	38,209,805	39,129,149	40,001,248	40,537,925	40,888,267	872,099	536,677	350,342

[注] 平成19年度は補正予算案、平成20年度は当初予算案である。